

劇的なエスカレーション間近か？

——ロシアのシリア介入 18 週目

【訳者注】このところ、各サイトの論説の対象が、シリア-トルコ危機に集中している。2年前のウクライナ危機と同じく、大戦争への発展の可能性を含んでいるが、ウクライナの場合と違って、ロシアは支援するシリアと国境を接していないどころが、かなり離れていることが心配だ、と **The Saker** は言う。つまりシリアへの侵略が起こった場合、ロシアは応じざるを得ないが、それは NATO からは、侵略だと言いがかりをつけられるだろう。これは **Eric Zuesse** (2/15) の懸念でもある。

それにしても、世界のメディアのプーチン悪魔化のパターンは、決まっていて、ほとんど予言可能で (2/13「イルミナティ理解のために」参照) 視聴者はもう騙されなくなっている。この論文 p.4 の皮肉な表現が利いているではないか！

The Saker

February 15, 2016, Information Clearing House

シリア情勢が分水嶺的な瞬間に達し、戦争の劇的なエスカレーションが間近に迫ったように見える。そこで、どのようにしてここに達したのか、おさらいしてみよう。

この作戦の初期の段階では、シリア軍は直接の戦略的成功を得ることができなかった。これは驚くに当たらない。この作戦の最初の数週には、ロシアはシリアに対して、空からの近距離援護をしなかったことを覚えておかねばならない。そのかわりに、彼らは組織的に、ダエシュ (**Daesh**、私はこの言葉でシリアのテロリスト“全体”を指している) のインフラストラクチャー全体の機能を奪うことを選んだ——指令拠点、通信網、燃料運搬車、弾薬運搬車、補給ルート、など。これは重要な仕事だったが、シリア軍に直接の影響は与えなかった。それからロシア軍は 2 つの重要な仕事に取りかかった——ラタキア地域のダエシュを押し返すこと、そして、ダエシュとトルコの間で不法なオイル取引を攻撃すること。最初の目標は、任務を帯びたロシア軍を保護するために必要であり、2つ目は、ダエシュの財政を断ち切ることだった。そこでロシアは真剣に空からの近距離援護に取りかかった。それだけでなく、ロシア軍は地上作戦にも直接、関与した。

第 2 の段階は徐々に始まった。ファンファーレはなかったが、それは大きな違いを地上に

もたらした。すなわち、ロシア軍とシリア軍が緊密に協力して行動し、それはやがて量的に新しいレベルに達し、シリアの司令官はロシアの火力を、きわめて効果的に使うことができた。さらにロシア軍は、T-19 戦車、現代的大砲装置、対砲兵レーダー、夜間透視ギア、といった現代的装備をシリア軍に供給し始めた。最後に、様々なロシアの報道によると、ロシアの特別作戦チーム（ほとんどチェチェン人）もまた、ダエシュの後方に隠れるなど、重要地点に配備された。その結果として、シリア軍は初めて、戦略的成功を得るところから、作戦に勝利するというところまで行った。実に初めて、シリアは戦略的に重要な主要都市を解放し始めた。

最後にロシア軍は、重要な前線のすべてに及んで、ダエシュに対し、驚くばかりの強烈な火力を解き放った。北ホムズにおいて、ロシア軍は連続 36 時間にわたって、ある拠点を爆撃した。ロシア防衛省の最新のブリーフィングによると、2月4日から11日の間だけで、シリア・アラブ共和国のロシア空軍は、510 回の出撃をおこない、1,888 のテロリスト標的を攻撃した。この種の猛烈な攻撃は確かに所期の効果をあげ、シリア軍はゆっくりとシリア - トルコ国境を移動し始め、同時に、アレッポの北部の内部にいまだに籠っていたダエシュ軍を脅かし始めた。そうすることによって、ロシアとシリア軍は、ダエシュとトルコをつなぐ致命的な補給線を断ち切ろうとしている。ロシア情報源によれば、ダエシュ軍は士気を失い、地方の人々を追い立ててトルコ国境に向かわせ、住居をなくした人々のこの動きの中に隠れようとしていたという。

<http://russia-insider.com/en/politics/no-more-games-syria-russia-pulverizes-moderate-rebels-36-straight-hours/ri12658>
https://youtu.be/Ar_mCvaYP5g

この戦略的なロシアとシリアの勝利は、トルコ、サウジ、アメリカなど、ダエシュを支援していたすべての国家が、アサドを倒し、シリアを分断し、その一部を“ジハーディスタン”にしようとした彼らの努力の、完全な崩壊に直面していることを意味する。もちろんアメリカは、これを認めることはできないだろう。またサウジについて言えば、彼らのシリアを侵略するという脅しは、嗤うべきものである。そこで主役はエルドアンに回ってきたが、この男は、西側のもう一つのキチガイじみた同盟軍を提供できたことで有頂天になり、全く無責任にも、“敵側”には、勝利らしいようなものを絶対に渡すつもりはないと言った。

エルドアンは 2 つのオプションを考えているようだ。一つは、ダエシュの補給線を奪い返すためにシリアへ地上軍を送り、シリア軍に国境線を支配させないようにすることである。これがどういうものかを示す (SouthFront ビデオから取った) よい例がある。

<http://thesaker.is/foreign-policy-diary-turkeys-military-intervention-to-syria/>

さまざまな報道から判断して、エルドアンは1万8000の兵士をもち、このような侵略を実行するために、国境沿いに、これを援護する航空機、装甲車、大砲を配備している。

もう一つのプランは、少なくとも理論的にはもっと単純なもので、シリア全土に飛行禁止ゾーンを作ることである。エルドアンはこの案を数回、個人的に口にしたことがある——最近
は、木曜 11 日に。 <http://www.presstv.com/Detail/2016/02/11/449730/Turkey>

いうまでもなく、両方のプランとも、国際法の下では絶対的に不法であり、侵略行為に相当し、ニュルンベルグ法廷によれば、「この上ない国際的犯罪」である。なぜなら、「それは、それ自身の内部に、全体の累積された悪を含むからである」。だからといって、これがあれば、エルドアンのような超狂気の男を引き留められるわけではない。

<http://www.economist.com/node/14205505>

エルドアンとその西側支持者たちは、もちろん言うであろう——人道的な災害あるいはジェノサイドがアレッポで起こっている、“保護責任”がある、このように明らかな“人道的”行動に国連安保理など必要がない、と。西側メディアは現在、盛んにプーチンを悪魔化しており、ほんの最近、こんなものにいまだに耳を傾ける人々に向けて、次のような話題を提供した——

1. プーチンは“おそらく”リトヴィネンコ殺害を命令した。

<http://www.theguardian.com/world/2016/jan/21/alexander-litvinenko-was-probably-murdered-on-personal-orders-of-putin>

2. プーチンがリトヴィネンコ殺害を命令したのは、リトヴィネンコが、プーチンの小児性愛を暴露しようとしたからだ。(これは本当の話で、冗談ではない、ご自分でお調べあれ！)

<http://www.thedailybeast.com/articles/2016/01/21/alexander-litvinenko-was-killed-killed-for-calling-putin-a-pedophile.html>

3. 第三次大戦は、ロシアがラトヴィアを侵略することによって、起こる可能性がある。

<http://www.bbc.co.uk/mediacentre/proginfo/2016/05/inside-the-war-room>

4. アメリカ財務省によれば、プーチンは腐敗している。

<http://www.reuters.com/article/us-usa-russia-treasury-idUSKCN0V32KA>

5. ジョージ・ソロスによれば、プーチンは“EUの崩壊”を望んでおり、ロシアはジハード国より大きな脅威だ。

<https://www.rt.com/news/332193-putin-eu-disintegration-soros/>

6. ロシアはあまりにも危険がから、ペンタゴンはヨーロッパ防衛の経費を4倍にしようとしている。

<http://www.bbc.com/news/world-us-canada-35476180>

7. プーチンはシリアの ISIS を強化している、そして難民をさらに作っている。

<http://www.theguardian.com/world/2016/feb/02/putin-strengthening-isis-syria-uk-foreign-secretary-philip-hammond-russia>

<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/turkey/11926601/Russian-air-strikes-in-Syria-could-cause-a-new-refugee-crisis-Turkish-PM-says.html>

こんなリストを続ける必要はない——およその程度がこれでわかるだろう。これは全く、ボスニア、コソボ、イラク、リビアの再現である。全く同じ「人道的そら涙」と、全く同じ不法な侵略の理屈付けである。そしてサライエボ、つまり“セルビアの殺し屋によって包囲された殉教者の都市”の代わりに、ここにはアレッポ、つまり“シリアの殺し屋によって包囲された殉教者の都市”がある。私は次には、アレッポ内部の一連のニセ旗作戦によって、“世界はジェノサイドに対して抗議すべき”ことが“証明”されるのではないかと思う。

もちろん大きな違いは、ユーゴスラビア、セルビア、イラク、リビアは、すべてアングロ・シオニスト帝国に対して、ほとんど無防備だったということである。ロシアはそうではない。

純粹に軍事的にみれば、ロシアは多くの肝要なステップを踏んでいる。ロシアは、南部と中央軍事地域の“戦闘準備態勢”の大規模な“証明”を宣言した。現実的に言えば、ロシア軍が、特に航空宇宙軍、空挺部隊、軍事輸送航空隊、そしてもちろん、クリミアのロシア軍と黒海のロシア艦隊を、高度警戒状態におくことを意味する。このような“準備体勢”の最初の現実的効果は、多くの軍隊を即出動可能状態にするだけでなく、それらを非常に追跡困難な状態におくことである。これは出動させられた軍隊を保護するだけでなく、彼らが何をしているのかを、敵にわからないようにすることである。報告によると、「ロシア空軍早期警戒管制機」(AWACS)——A-50M——が現在、シリア上空を定期的に飛んでいる。言い換えると、ロシアはトルコとの戦争に必要な準備を整えている。

<http://tass.ru/en/defense/856042>

言うまでもなく、トルコとサウジもまた合同軍事訓練を発表している。彼らは、サウジ空軍はシリア侵略を支援して、Incirlik 空軍基地からの空爆を行うだろうとさえ通告している。

<http://www.sott.net/article/312055-Fueling-tensions-Turkey-Saudi-Arabia-plan-to-conduct-joint-war-games>

<http://www.independent.co.uk/news/world/middle-east/saudi-arabia-sends-troops-and-fighter-jets-to-military-base-in-turkey-ahead-of-intervention-against-a6871611.html>

同時に、ロシアはまた、3月1日にスタートした一般休戦を中心として、あるいは2月15

日の最近のリークに従って、平和イニシアティブを取っている。目標は明瞭で、トルコのシリア侵略へのはずみを破壊することである。ロシア外交官がトルコとの戦争を回避しようと、あらゆる努力をしていることは明らかである。

ここでまた私は、過去数え切れぬほど言ってきたことを繰り返さねばならない。シリア内での小さなロシアの立場は、非常に危ない状態にある——ロシアからは遠く離れ、トルコにはきわめて近い（45 km）ということである。それだけではない、トルコは 200 機以上の戦闘機を攻撃準備態勢でもっているが、ロシアはおそらく、全部で 20 機以下の SU-30/35/34 しかもっていない。確かにこれらは非常に高性能な、4 ++ 世代の航空機で、S-400 システムの援護はあるが、戦力比の 1 : 10 は変わらない。

しかしロシアは確かに、トルコよりも大きな利点もっている。ロシアには沢山の長距離爆撃機があり、これらは重力爆弾と巡航ミサイルで武装しており、シリアでもトルコ本土でも、どこでもトルコ軍を攻撃できる。実際、ロシアは、トルコ空域で攻撃する能力もっていて、これはトルコ軍が防御も反撃もできないものである。ロシアにとって、この時点で大きなリスクは、NATO がこれを、加盟国に対するロシアの“侵略”と解釈することだ——特に（悪）名高い Incirlik 航空基地が攻撃された場合には。

https://en.wikipedia.org/wiki/List_of_Turkish_Air_Force_bases_and_airfields

https://en.wikipedia.org/wiki/Incirlik_Air_Base

エルドアンはまた、もう一つの現実のリスクを考慮しなければならない。すなわち、トルコ軍は間違いなく有能ではあるが、百戦錬磨のクルド軍やシリア軍には太刀打ちできない可能性がある——特に後者がイランやヒズボラ軍に援護された場合には。トルコ軍には、クルド軍に対する様々な記録があって、彼らはクルドを火力と数の力では完全に制圧するが、クルドを無力化したり、兵力を減らしたりするのに成功したことはない。最後に、可能性として、ロシア軍は、彼らの地上軍を使わねばならなくなるかもしれない——特に Khmeimim の任務隊が本当に脅威を受けた場合には。．．．．．

明らかなことは、ロシアとトルコの間どんな戦争であっても、NATO がカギとなる決定を下さねばならないことである——この同盟は、エルドアンのような狂人を保護するために、ロシアのような核大国と戦争を構えなければならないのか？ 米・NATO がそんなキチガイじみたことをするとは考えにくい、不幸なことに、戦争はいつでも、急速に制御できなくなる可能性もっている。現代の軍事理論には、多くのエスカレーションのすぐれたモデルがあるが、不幸なことに、逆エスカレーションの優れたモデルは、私の知る限り存在しない。どうしたら、降伏と見られることなしに、また少なくとも、弱い側と認めたとと思われることなしに、エスカレーションを逆にできるだろうか？

現在の状況は、危険で不安定な不均衡に満ちている。シリアにいるロシアの任務部隊は小さく、シリアを NATO やトルコからさえ保護することはできない。しかしロシアとトルコの間には全面戦争が始まった場合には、トルコに勝ち目はない——全くない。NATO とロシアが向き合う戦争では、最初に核兵器を使うことがない限り、どちらの側も負けることはない。私は個人的に考えている——この場合、「勝ち負け」がどんな意味であろうと。ここから私が推測するのは、アメリカはエルドアンに、シリアにいるロシアの任務部隊を攻撃させることは、できないだろうということ——地上侵略の間にも、飛行禁止ゾーンを作る間は、なおのこと、できないだろうということである。

アメリカにとって問題は、彼らのシリアにおける全体的目標、すなわち“ロシアの勝利阻止”のための、よい選択肢はないということである。アングロ・シオニスト支配者たちの幻想では、ロシアなどは、“不可欠の国”（アメリカ）に挑戦することの許されない“地域的強国”にすぎない。にもかかわらずロシアは、シリアとウクライナにおいて、まさにそれをやっつけて、オバマのロシア政策全体がガタガタになっている。彼は選挙の年に、そんなに弱虫でいていいのだろうか？ アメリカという“深層国家”（deep state）が、その帝国を辱められ、その弱さを暴露されてもいいのだろうか？

ごく最近のニュースから私は、ホワイトハウスは、トルコとサウジアラビアに、シリアを侵略させる決定をしたのではないかと考えている。トルコの高官たちは、侵略は間近に迫っており、このような侵略の目標は、国境沿いとアレッポ近辺のシリア軍の進出を逆転させることだと、公的に話している。最近の報道ではまた、トルコはアレッポへの砲撃を始めたようである。こうしたことは、CENTCOM（アメリカ中央軍）とホワイトハウスの、全面的サポートなしには起こりえないことである。

<http://www.prestv.com/Detail/2016/02/13/450083/Saudi>

<http://www.prestv.com/Detail/2016/02/13/450065/Turkey>

<http://www.zerohedge.com/news/2016-02-13/turkey-says-massive-escalation-syria-imminent-saudis-set-launch-airstrikes>

アメリカ帝国は、明らかに、ダエシュはアサドを倒すほどの力をもたない、少なくとも、ロシア航空宇宙軍が彼を支援している限り、無理だと判断している。だから今、彼らはトルコとサウジをけしかけて、この戦争の結果を変えよう、あるいはそれが無理なら、シリアを切り分けて“責任地域”を作ろうとしている——もちろんすべてダエシュと戦うという名目で。

シリアのロシア任命隊は、非常に深刻な危険状態にあり、それ独自ではこの新しい挑戦にどう対処できるか、私にはわからない。私は、自分のこの判断が間違っていてほしいと心から

願うが、本物のロシアのシリア介入は、結局のところ、MiG-31などを伴って可能になる、と認めなければならない。実際、あと数日したら、シリア紛争の劇的なエスカレーションを目撃することになると思う。

<http://www.unz.com/tsaker/a-russian-military-intervention-in-syria-i-very-much-doubt-it/>